

2021年3月 春 号 Vol.**34** 

# 地域医療支援センターだより



## 🥐 年度末のご挨拶 〜お礼とお願い〜



地域医療支援センター長 内科診療部長

山端 潤也

#### **<日常診療を支えていただきありがとうございます>**

例年、冬季間は長期の入院を要する患者さんが多く、病床が逼迫し、新規の急性 期患者さんの受け入れが困難となるのが悩みのタネでした。この冬は当センターはじめ 院内が一丸となって活発な入退院支援に努めました。

ご無理を申し上げた先生方・ご施設もあり大変恐縮でしたが、力強いご協力をいただけました。 2つほど例を挙げますと、

①これまでは、「最終的な落ち着き先が決まってから」のお受け入れが主でいらしたのが、**方針を決め**る早期の段階からお受け入れいただけた病院様があります。

**ケアマネジャー様のお力添え**もあり、急性期を乗り越えた**早期から、地域にお戻し**することができるようになりました。

②いつも当院と活発に入退院の連携をいただいているご施設ですが、最近はご家族との話し合いを 充実され、終末期の患者さんのお看取りまでご施設でなさることが増えたとのことです。

まとめますと**急性期医療を担う能登総合病院**と連携をいただきながら、**亜急性期〜慢性期、さら** には終末期を地域の先生方・ご施設で担っていただく「役割分担」が進んできていることを実感し、感謝申し上げる次第です。

## <紹介・逆紹介の充実をお願い申し上げます>

普段先生方にご高診いただいている患者さんで、緊急などで当院を受診される患者さんが多くいらっしゃいます。特に入院された際など、かかりつけの先生に普段の診療状況をお尋ねすることがあるかと思います。その際には、紹介状の形での情報のご提供をお願い申し上げます。先生方からは「何気ない、些細に」思われる情報でも、ご処方ひとつの根拠でも、当院での加療には大きな情報となることが多々ございます。お手数とは存じますが、ご高配をどうぞよろしくお願い申し上げます。さらに今後、先生方にかかりつけ・ご紹介の方はもちろん、安定した患者さんを、身近で通院可能な先生に当院からご紹介(逆紹介)することが増えるかと思います。

「普段落ち着いているときは地域の先生にご高診」いただき→「何かあれば能登総合病院にご紹介」→「落ち着けば地域にお戻しする」のプロセスを確立したいと思っております。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 退職のご挨拶

## 地域医療支援センター課長補佐 MSW 高名 祐美

## <地域医療にかかわって38年>

「病気の人の力になりたい」それが私の医療ソーシャルワーカー(MSW)を目指した動機でした。昭和58年4月当院に就職。「MSWってなにする人?」自己紹介するとまずそんな言葉が返ってきました。

当時の院長宮永盛郎先生が、「これからはプライマリーケアの時代だ」とMSWを 求められ、第1号として採用されたのが私でした。当時は県内の限られた病院に しか配置されておらず、宮永先生には「能登地区公立病院MSWのパイオニアだぞ」と期待をかけら

昭和58年は老人保健法が施行され、「訪問看護」が診療報酬に登場した年。私は看護部と一緒に「訪問看護」に取り組みました。私の地域医療実践第一歩は、退院した患者さんの自宅へ足を運ぶことでした。現在は院内での相談業務が主になりましたが、ここぞというときには地域に出かけています。



れました。

がん患者を担当する私は、その方に残された時間を大切に考えてきました。本人・家族との面接を繰り返し、「家に帰りたい」という患者の声が実現できるよう、院内スタッフ・地域の関係機関と協働してきました。退院に向けてはケアマネジャーとやりとりを繰り返し、地域の医師、訪問看護ステーション、介護事業所と連携を図ります。

コロナ禍で、「病院にいると患者に会えない」と家族からも自宅退院を切望する声を聴くようになりました。

ケア会議をオンラインで開催したりしながら退院日を決め、病院から自宅へ送りだします。退院日、家に帰って家族に囲まれた患者さんのなんともいえない笑顔にそれまでの苦労が吹き飛びます。その瞬間に立ち会える喜び。3月末をもってそんな日々に別れを告げることとなりました。

MSWとして38年間。ここまで続けてこられたことを幸せに思います。 この場をかりて皆様に感謝申し上げます。



## **デ**おまけ <お礼を伝える連携>

医療的ケアが必要で、受診が困難な方が在宅療養を希望されるとき、地域の医師・訪問看護ステーション・ケアマネとの連携が必須です。その際、まず必要なのは在宅医の依頼です。訪問診療を依頼するために医師が診療情報提供書を作成します。MSWの私は退院につながるまでを担当しますが、退院後のやりとりはあまり知る機会がありませんでした。

地域医療支援センターにいることで、最近こんなやりとりがあることを知りました。

当院から在宅医をお願いした地域の医師から 在宅看取りをした旨の報告が届き、その報告を受 け取った当院の医師から返書。こうした「お礼を伝 える連携」が次の協働につながると感じました。 「お礼を伝える」ことを忘れないようにと思います。



最後にはご本人とご家族の希望を叶える ことができたのではないかと思います。

ご多忙のところご尽力頂き誠にありがとうございました。

今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

(返書一部抜粋)



# 消化器内科のご紹介

公立能登総合病院 内科 長井 一樹

2020年4月より内科で勤務しております長井と申します。専門は消化器で、なかでも消化器がんに対する薬物療法に興味をもって取り組んでまいりました。能登病院での仕事もようやく軌道にのってきたタイミングですが、このたび市立輪島病院へ異動することとなりました。

私事ではございますが、金沢大学の特別枠(いわゆる地域枠に近い制度です)出身であり、今回は医師3年目の公立宇出津総合病院以来の奥能登勤務となります。短い期間でしたが大変お世話になりありがとうございました。コロナ禍ということもあり、地域の先生方と直接お会いする機会がなかったことが残念です。是非また帰ってきたいと思いますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。また、今後も特別枠出身の若手医師が当院に勤務することが予想されますので、ご指導頂ければ幸いです。ありがとうございました。



## 眼科外来の診療体制の変更について

令和3年8月から眼科常勤医師が1名体制になります。そのため、令和3年7月1日から当面の間、当科外来は精査・加療が必要な患者様の受入れを休止させていただきます。

なお、手術につきましては、 6月まで予約が埋まっており ますので、新規の手術目的 の受入れは中止させていた だきます。

先生方および患者様には 大変ご迷惑をおかけし申し 訳ございませんが、ご理解・

ご協力のほどよろしくお願いいたします。



## 小児科の休日当番日

4月 18日

7月 18、25日

5月 3、9、30日

8月 9、29日

6月 27日

9月 20日

#### 脳神経内科受診のご案内

当院脳神経内科は予約制です。

受診の際は、地域医療連携係まで連絡をお願いいたします。

## 脳神経外科輪番制の当番日

4月 3・4、10、17・18、24, 29

5月 1.2、4.5、8、15.16、22、29.30

6月 5、12・13、19、26・27



## 編集後記

地域医療支援センターに配属され1年が経ちました。

慣れない点も多く、地域の皆様にはご迷惑をおかけしたことと存じます。

その中で、多くの医療・介護関係の方々とのやりとりを通して、地域における当院の役割を再認識できたように感じます。

「地域医療支援センターだより」の発行も今回で4回目となりました。

来年度も地域医療支援センターに関して、皆様へお伝えしていきたいと思っています。

地域連携係 鹿島

発行元 〒926-0816 七尾市藤橋町ア部6番地4 公立能登総合病院 地域医療支援センター TEL: 0767-52-8718 FAX: 0767-52-8772 Email: renkei@noto-hospital.jp